

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和8年度第1回河内長野市文化振興計画推進委員会
2 開催日時	令和8年5月20日(水) 午前10時30分から
3 開催場所	市民交流センター 中会議室
4 会議の概要	(1) 委嘱状交付及び委員長・副委員長選出 (2) 第2期文化振興計画の進捗状況について
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	(担当課名) 成長戦略局 活力創造戦略部 文化・スポーツ活性課 (内線427)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和8年度第1回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

日 時 令和8年5月20日（水）午前10時30分～12時00分
場 所 市民交流センター 中会議室
出席者 車谷委員長、寶楽副委員長、宮崎委員、飯田委員、おぐし委員、
吉年委員、尾花委員、安田委員
(河内長野市) 向井部長、東課長、西尾グループ長、玉置

(事務局)

ただいまより、河内長野市文化振興計画推進委員会を開会します。委員の皆様には、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。

〈資料の確認〉

委員の出席状況をご報告します。河内長野市文化振興計画推進委員会運営規則第5条第2項の規定により、10名の委員のうち過半数の5名以上の出席が必要となっています。

現在、1名オンラインでのご参加、現地にて7名出席、欠席2名には、審議に係る委任状をいただいております、会議の成立要件を満たしていますので、報告します。

本日は、新たな任期の始まりとなるため、委嘱状の交付をさせていただきます。なお、本日は市長が別公務のため、活力創造戦略部長の向井より委嘱状をお渡しさせていただきます。委員の皆様の任期は2年となります。

〈委嘱状交付〉

それでは、活力創造戦略部長の向井より一言ごあいさつを申し上げます。

(向井部長)

ただ今ご紹介いただきました活力創造戦略部の向井です。本日は、お忙しい中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。また、平素は、河内長野市文化振興計画推進委員会をはじめ、市政各般にわたり、格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本日は、委嘱式も兼ねておりますが、多くの委員の皆様には、昨年度に引き続きご参画いただけること、大変心強く感じております。委員会のこれまでの歩みと知見は、本市の文化振興にとって何よりの財産でございます。さて、本市では、この春より「成長戦略部」を「活力創造戦略部」「まち創造戦略部」の2つの部へと組織改編し、新たなスタートを切りました。組織改編はありましたが、担当課の体制としては大きく変わっておりませんので、これまで以上に「文化」の力を、本市の活力として力強く推進していく所存です。

また、昨年度、委員の皆様にご審議いただき、策定いたしました第3期文化振興計画が、いよいよ本格始動いたします。この計画のもと、市民の皆様一人ひとりが文化を身近に感じることができる文化活動の発展と継続を図ってまいりたいと考えております。

今後とも委員の皆様には、活発なご議論のうえ、幅広いご意見をいただきまして、これからの本市の文化振興、ひいては、文化をまちのにぎわいづくりに活かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

〈委員の紹介〉

〈事務局職員の紹介〉

続きまして、文化・スポーツ活性課長の東より、令和８年度よりスタートしました「河内長野市第６次総合計画」などにつきましてご説明させていただきます。

(事務局)

第３期文化振興計画が３月に策定されました。本推進委員会でみなさんにご議論いただいた内容で、３月に策定いたしました。同時に、河内長野市全体のまちづくりの指針である河内長野市総合計画を新たに策定し、ポスターの通りとなっております。通常よくある市の計画では文章が多く、第３期文化振興計画も冊子としてはかなり文章量のあるものとなっておりますが、このたび策定されました総合計画は文章が少なく、基本構想としてはイメージを中心に作らせていただいたものです。ポスターにある「ふだん」「じぶん」「好き」のとおり、市民の皆さんがまちを思っていたけりような計画となっております。

「ふだん」は、１０年後に私たちがどんなふだんを生活しているのだろうか？「じぶん」は、自分が生きるまちってどんな街だろうか？「好き」は、これからどんな好きを集めていけるだろうか？というようなコンセプトとなっております。実は、この総合計画の中のいくつかの項目のエッセンスを、第３期文化振興計画でも受け継いでいます。特にNo. １７の「推しと出会える、育てる嬉しさ」とあるとおり、いわゆる自分が好きなものを推していくという意味で「推しと出会って、育てていく」ことについて、第３期文化振興計画が果たす役割が大きいのではないかと考えております。

一方で、第３期文化振興計画の冊子には、市内で行われている文化活動のイメージを集めた、たくさんの文化のイメージが描かれています。これらの文化を今後、市民が身近に感じて、生き生きと心豊かに暮らす街を目指しましょうという意図です。基本理念は２期から大きくは変わっておりません。これから１０年間、この方向に向けて文化振興事業を進めていきたいと思ひます。

一方で、目標１・２は２期から大きく変更し、目標を具体的に掲げることになりました。目標１は「文化を市民の誇りに」とし、文化振興の主役である市民一人一人が、「推しと出会える」などの文化を身近に感じ感動を循環させて、シビックプライドを醸成していこうという目標です。目標２は「文化を街のにぎわいに」とし、文化振興というテーマだけではなく、福祉・教育・産業観光それから地域経済の活性化など、様々な場面で市民の皆様の文化活動

を活かして、わくわくするようなつながりがあふれる街を実現していこうと決めました。

また、第3期の文化事業の体系図では、2期の考え方を踏襲し、矢印のあり方などは、この委員会で議論してきたものをふまえて作成しています。基本理念を「市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち」とし、次に2つの目標を定め、目標に向かって進めていくために、4つの方針を掲げてそれぞれに紐づく事業を進めて参ります。

また、第3期では、3つの評価指標を掲げました。1つ目は、ラブリーホールの入場者数。これが現在12万7,101人であるところを、10年後、この計画が終了する令和17年度には16万人まで上げていきましょう。2つ目は、観客を除く文化振興事業の延べ参加者数。実際に文化振興に携わって参加してくれる方は、令和6年度実績で1万1,822人、これを約2倍の2万4,000人にしていきましょう。3つ目は、文化芸術の満足度。これは総合計画の指標とも連動しており、アンケートをとって数値化しているもので、令和7年度の数値で3.1点でしたが3.7点を目指していきましょう、というものです。

この3つの数値を目指しながら、最終的には文化振興を豊かにし、第3期の計画の実現を図っていきたいと考えております。

案件1 委嘱状交付及び委員長・副委員長選出について

(事務局)

本日の会議は、新しい任期での最初の会議ですので、委員長・副委員長の選任をしていただく必要がございます。委員長及び副委員長は、河内長野市文化振興計画推進委員会運営規則第4条第1項の規定により、委員の互選によって選出するとなっておりますが、いかがでしょうか。どなたか推薦はございますか。

—事務局一任の発言—

それでは、事務局案として、前期に引き続き、委員長は車谷委員に、副委員長は實楽委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

—拍手—

ありがとうございました。ご異議なしと認め、車谷委員長、實楽副委員長にお願いしたいと思います。それでは、車谷委員長、今後の議事進行をよろしくお願いいたします。

(車谷委員長)

前回の計画策定でも、委員の皆様から様々なご意見を頂戴いたしました。さすが河内長野市におられる、それぞれのエキスパートの方々が集まっておられる委員会だと実感しました。今期は、計画の進行管理を中心に進めていかなければなりませんので、どうぞ忌憚ないご意見を出していただきますようお願いします。

そして、課長から説明がありましてとおり、河内長野市がすごく大きく変わりつつという実感があります。私自身は市民で、市長のSNSでは様々な活動をされている様子が見えて、

総合計画も視覚的なとても分かりやすいキャッチフレーズ的なものに変えられており、本当に改革の意欲を感じます。本当に幅広い文化をどんな風に発信するのかというあたりが大きな課題になっていると思いますので、その取り組みを少しでもと考えております。

どうぞ、皆さん方にいろんな話を聞いていただきたいと思います。簡単ですが、就任のご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(寶楽副委員長)

ラブリールホールが市民との関係性が大きく変わる約10年前に文化振興の委員に入らせていただき、当時から議論をしてきているという理由から、副委員長という役割をいただいていると思います。その時大事にしていたことは大事にしつつ、今回特に市民が主役で文化が誇りになるというところを、お客様社会という形ではなく、シェアリングエコノミーなど今いろんなものがありますので、文化の担い手をどう増やすかというところの「コーディネーション」をしっかり議論したいと思っています。

(車谷委員長)

それでは会議の公開及びその方法について、事務局から説明を求めます。

(事務局)

それでは、会議の公開について説明させていただきます。

河内長野市附属機関等の設置、運営及び公開等に関する指針第11項に基づき、河内長野市で行われている会議は原則、公開となっており、第12項に「会議の公開又は非公開は、附属機関等の長が当該附属機関等にはかって決定する」とあります。そこで、過去に開催しました当委員会の会議においても公開としておりましたことから、引き続き、当委員会は公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

また、同指針第13項に「会議の公開は、会議の傍聴を希望する者に、当該会議の傍聴を認めることにより行う」とありますので、傍聴に関して必要な事項を定めさせていただきたいと思います。併せてご審議をお願いいたします。

(車谷委員長)

ご説明がありました通り、会議の傍聴・公開にご異議ございませんでしょうか。異議なしと認めまして、今回公開傍聴の許可をいたし、傍聴者がおられましたら入室をさせます。

(事務局)

傍聴者はなしです。

案件２ 第２期文化振興計画の進捗状況について

（車谷委員長）

それでは、案件２の方に移りたいと思います。「第２期文化振興計画の進捗状況について」の説明を事務局からお願いします。

（事務局）

別紙資料「河内長野市第２期文化振興計画」関連事業一覧表をもとに、計画の進捗状況を説明します。第２期計画は、平成２８年度から令和７年度までの１０年間を期間とし、２年ごとに各施策の進捗状況の管理、評価・検証などを行ってきました。今回は、最終年度となり、計画の進捗状況について総合的なご意見を頂戴できればと思います。

シートでは、令和２年度までは実施したかどうかのみを記載しておりましたが、令和３年度以降は、前年度に比べて効果があったものや好評だったものは「充実」、その逆は「効果なし」、同程度だったものは「継続」と記載するよう変更しております。

１ページ目、方針①市民が主役となる感動の場・想像の場づくりでは、ラブリーホールの指定管理者である文化振興財団が実施する公演等の事業は、毎年充実を図っており、また文化振興の拠点である施設管理についても適切な管理に努めております。

続いて、市民が文化と出会い、主役となる場の創造では、つながりフェスタやボランティア入門講座、公民館活動発表などの事業が行われております。この１０年間でコロナ禍による中止や、市民まつりなどは終了となるなど、中止・終了の事業もありますが、多くの事業が令和３年度以降充実して実施されており、ラブリーホールのミュージカルの制作や上演、のこぎり音楽教室などの事業を文化振興財団が実施しております。

続いて、２ページ目、方針②人と文化、ひとと人をつなぐ人材づくりでは、コーディネーター育成制度の構築については引き続き「検討」としております、また、一部中止となった事業もありますが、文化祭など事業については、継続して行われております。

３ページ目、方針③人の循環を深め、心豊かになる環境づくりでは、文化振興財団による学校・福祉施設への「アウトリーチ」、大阪・関西万博で実施されましたサキタハヂメ氏による「奥河内音絵巻」、日本遺産のまちとしてのイベントや学習館での展示実施、郷土歴史学習やこども文化財解説など、地域に根差した活動の充実を図っております。

４ページと５ページ、最後の方針④感動と循環が生み出す魅力の発信では、各事業でホームページやＳＮＳなどを用いて、市内外へ効果的かつ効率的に本市の文化振興の取り組みなどを紹介し、情報発信の充実にも努めております。説明は、以上となります。

（車谷委員長）

ありがとうございます。では、ご意見をお願いします。

(おぐし委員)

数点あります。高野街道まつりを再び実施されるという話がありましたので、「終了」ではなく「実施」ではないですか。次に、多文化共生推進プランの策定が「終了」になっていますが、令和2年の段階で、外国の方の居住者も増えていますので、そのあたりが「終了」のままでいいのかどうかと思います。次に、第2次河内長野市文化財活用計画、文化財保存活用地域計画の記載がありますが、そのあたりの詳細情報がなかったように思います。最後に、販路開拓等支援事業のつまようじに関しては、令和元年に「終了」となっていますが、今年はサキタさんも取り上げておられるので、「終了」のままでいいのかどうかと思います。

(事務局)

高野街道まつりは、今年度中に開催されるようですが、詳しい情報はまだ聞いていない状況ですので、シートでは「終了」となっています。多文化共生プランについては、「策定」という部分では令和2年に完了しましたが、現在でもデータ等の更新は行っております。文化財保存活用地域計画に関する詳しい内容は、本市ホームページに公開しております。販路開拓等支援事業は、今年、つまようじを題材にした奥河内音絵巻の公演が予定されていますので、今後の取り組みとして検討させていただきます。

(寶楽副委員長)

以前に、この進捗シートの在り方について議論があり、改善方針だったと思いますが、なぜ同じシートを使用しているかの経緯を教えてください。

また、今回の評価の方法は、どのような目線から意見を述べていくべきなのか。第2期からみた達成度や、以前から重ねてきた議論から進んでいるのかなどでしょうか。先ほどのおぐし委員のように各事業について指摘するのか、文化振興計画の進捗や達成度や、この計画を作るために議論してきたものが進んでいるのか、市役所では見えていない視点を多様な角度から評価するというのでしょうか。

また、文化振興計画推進委員の役割と文化振興計画の位置づけ、文化・スポーツ活性課が行っている政策整理、資料作成などでどう考えていたのか、教えていただけませんか。

(事務局)

評価の在り方については、第3期の評価の際に改善するものと認識しています。いずれにせよ、2期計画の評価については、今回で最終となりますので、この段階で大きな改善をするよりは、3期の評価について改めて検討していきたいと考えております。

文化振興計画推進委員会の役割と位置づけについては、計画の1期まで戻る話になるのですが、元々20年前に、本市の文化を振興する計画が作られた際に、この計画を推進する委員会を立ち上げ、文化振興事業のあり方を議論し、現在まで進めてきております。

第3期計画を策定するにあたり、この推進委員会で計画を議論していただき、中身を決めていこうという流れで、その答申を受けた市が計画を策定しました。それがカラーでお配りした第3期計画となります。改めてお願いさせていただくとしましたら、第3期計画の進捗管理や進捗、修正も踏まえて、ご意見を委員の皆さんからいただきたいと思います。

次に、文化・スポーツ活性課の位置づけは、この計画を策定した市の担当課となります。しかし、計画にある事業をすべて文化・スポーツ活性課が実施しているというわけではないのはご存知のとおりで、当然、庁内の様々な課が実施している事業があります。なお、ラブリールホールは、指定管理制度をとっており、指定管理者である文化振興財団が実質的に運営しています。指定管理者に対して、市は事業を依頼したり、修正を求めたり、指導したりという権限を持っているというのが、文化・スポーツ活性課の位置づけになります。

(寶楽副委員長)

シートのフレームワークで言うと、右側に記載の事業が、たくさんダブっていて、しかも進捗しているかどうかの把握にとどまっており、委員会で瞬時に判断するのは難しいと思います。だからこそ、シートの整理をもう一度検討する必要があると思います。

また、シートの2枚目にある方針2①コーディネーター育成制度の構築については、これまでずっと「検討」で報告されていますが、こういった取り組みが置き去りになるリスクがあります。せっかく委員会で意見を集めて作った文化振興計画ですので、議論したことがきちんと継続されるような報告が必要だと思います。

(車谷委員長)

シートのあり方については、前回もずいぶん議論が出ていました。継続審議とし、このような形で良いのか、数字で表す必要があるかなど、第3期で検討を進めていきますので、現在の2期については、以前のままでご意見を述べる方向でご了解いただきたいです。

(飯田委員)

終了した項目がいくつかありますが、終了したには終了したなりの理由があるかと思いますが、それがもう終了したのでほったらかしというのではなく、今であればまた違う形で実施できるのではないかなど、再考する場面があってもいいかと思いました。

(寶楽副委員長)

具体的に気になっていることがあればご指摘いただけますか。

(飯田委員)

先ほどの高野街道まつりもそうですが、かなり前に終了となった「まちかどアート」など

があり、何か他の形で実施できないかと思いました。

（尾花委員）

私は、河内長野市ではこういう取り組みをしているという点では分かりやすいと思っています。音絵巻など万博がありました、市外の人も参加されていますし、ビッグなコンテンツがあるのはすごいと思います。一方で、どれも必要な事業だし、関わっている人が頑張って進めてきているものと思うのですが、3期を策定した中で、どの事業に力を入れるべきかが分かりづらく、一市民としては色んなことが起こっている中で、どれがまちの目玉なのかと感じました。私であれば、去年は音絵巻がすごく大きかったと思います。今、西條薬局跡地などのスペースでイベントが開催されて、駅前もいい意味でもきっと変わっていけると思う部分がある中で、先ほどの「まちかどアート」も価値があると思いました。

1つのコンテンツに関してですが、ここ数年で「河内材」がすごく目立ってきていて、河内材を使ったアートも出てきています。そういったものは案外、知らない市民が多いと思います。「まちかどアート」にも使えるものがあるのではないかと思います。

文化振興事業の延べ参加者数（観客を除く）を2倍にするっていうのを考えたときに、観客を除いた時に何が参加に入るのか、出演者で単純に2倍にするのはかなり大変だと思っています。今、ご年配の方が積極的に参加されていて、新しく入ってくる人がいない中、出演者が増えるというのは限界があります。うなぎ登りで、出演したい、歌いたい、演奏したいという人がこれから増えるとは思えないです。となると、事業自体の企画に関わるボランティアが観客以外の参加になると思います。関わってくれる人が増えることが、重要ではないでしょうか。ただ、シートの中には、ボランティア育成・ボランティア入門とありますが、若い子と関わっている中で感じるのは、「ボランティア」という言葉は、若い子にとってネガティブな言葉だと思います。私たちにはボランティアは価値があり、やりがいがあることだと思いますが、ボランティアをしたいという10代20代は少ないです。ボランティアって無償のお手伝いでしょみたいなイメージがあると思います。それを払拭するために、何か違う言葉で表せられないでしょうか。以前、狭山池まつりに出演させていただいた時に、狭山高校の生徒と卒業生たちが企画に携わっていました。そういうのを見ると、これから地域にいろいろな興味を持ってくれるのではないかと若い世代に、参加することに価値を感じるような、ボランティアじゃない別の言葉があればいいのではと思います。

あと、私は10代20代、河内長野ですと何に参加したらいいか分かりませんでした。寶楽副委員長が高校生の時から地域活動されていたというのを聞いて、高校生の時、何をきっかけに地域活動するのかと思ったことがありました。案外そういう場がもっと開けていたら、高校生の頃から楽しんで活動できる場面は、特に河内長野はたくさんあるのだろうと思います。若い子がやりがいを感じられる、面白いと思える形で、人数が増えていったらいいのだろうと思います。ミライプロジェクトを見ていたら、SNSもバズって若い子はすごく

やりがいがあるのだろうと、こういったのを色んな形でやれたらいい、高校・大学などとも関わりながら、というのを感じました。

（車谷委員長）

形式的な評価ではなく、市民目線、それから学生・若者たちの感覚が反映されていないといけないという、とても貴重なご提案だと思います。今の若者って本当にボランティアという気持ちがありません。ただ、万博という起爆剤があって、今、色んな人をつないで元気になっている状態ですから、それを大事にしたいですね。

（吉年委員）

3つほど意見があります。この評価進捗シートも見た上で、市役所内の連携はかなり大事だと思いました。福祉、教育、観光含めて。せっかくシートで確認していくわけですから、イニシアチブを取ってというか、要するに、市役所内で何が行われているかは最低限分かるというのはかなり大事だと思いました。

評価の仕方ですが、計画にも参加者数を増やすという目標があったと思いますが、見に来る側と作る側という2つの側面があると思い、作る側にどう入ってもらえるかという視点も大事だと思っていました。私、駅前再生会議という活動を通じて大学生と関わっているのですが、完全ボランティアと言いつつ、例えば就活につながるという側面があれば、積極参画してくれます。彼らにとっての価値をしっかりと提供できれば、お互いWinWinになるという経験がありますので、作る側や支える側にどう回るかという観点、もちろんコーディネーターの取り組みにもつながると思いますし、大事なところだと思いました。

あと、「終了」で全部斜線入っているのは寂しいので、「終了」と言いつつ、何を地域に残したか、きっと価値はあるし、そこで生まれたネットワークをどう活用していくかという話はあると思いますので、単に「終了」したかだけではなく、どう次の活動に接続されたかを前向きな視点で書いていけば、全部が一緒につながっているかのようで、計画通りと言いやすいのではないのでしょうか。計画に「感動」と「循環」と書いてありますので。

（宮崎委員）

シートを拝見すると、本当にたくさんの事業が実施されており、それ自体は非常に重要なことだと思います。一方で、シート上では、それぞれの事業が単発の「点」として存在しているようにも見えます。点はたくさんあるけれど、それらがどのようにつながり、市全体の文化芸術の振興や、文化政策として目指しているものにどう結びついているのかというところまで見ていく必要があるのではないのでしょうか。

基本理念には、「市民が文化を身近に感じ、生き生きと心豊かに暮らすまち」とあります。そうであるならば、事業を何回実施したか、何人が参加したかということだけではなく、市

民が文化をどのように受け止め、理解し、解釈しているのか、さらに、それをどのように「自分ごと」として感じているのかという点も、評価の大きなポイントになると思います。

シートだけを見ていると、どうしても個々の事業を「点」で評価することになってしまいます。もちろん、アンケート調査や参加者数など、数値から分かることもありますし、定量的な評価は必要です。ただ、それだけでは見えてこない、市民の声や感覚、事業に関わった人たちの変化、現場で起きていることなども見えるようにしていく必要があると思います。

その上で、私たち委員が、それぞれの事業について、計画全体の方向性に照らしてどう評価するのかを協議できるようになるとよいと思っています。つまり、個々の事業の成果を確認するだけではなく、それらの事業が積み重なることで、市民と文化芸術との関係がどのように変わってきているのか、あるいは市の文化芸術の環境がどう変化しているのかまで見ていける評価のあり方が必要なのではないかと思います。

昨年度までの文化事業については、さまざまな事業が実施されているという印象を持っています。その一方で、実際に関わっている市民の声や、現場を担っている人たちの声についても、もう少し見てみたいと思います。そこには、参加者数や満足度だけでは把握できない成果や課題があるのではないのでしょうか。

また、以前の会議で「本物」という言葉について議論があったと思います。それと同様に、「市民が主役」という言葉についても、もう少し掘り下げて考えてみる必要があると思います。例えば、「本物」とはプロフェッショナルによる文化芸術だけを指すのか。それとも、プロ・アマチュアという区分とは別のところに「本物」があるのか。また、「市民が主役」というとき、市民は文化芸術を享受する側なのか、自ら創造活動を行う側なのか。この二つだけでもないと思います。実際には、プロフェッショナルからアマチュアまで、文化芸術を「見る人」「聴く人」「つくる人」「演じる人」「支える人」「伝える人」「つなぐ人」など、さまざまな関わり方があります。その間には非常に多くのグラデーションがあり、例えばコーディネーターのように、人と人、あるいは文化芸術と地域をつなぐ役割もあります。そう考えると、「市民が主役」ということは、必ずしも全員が創作や表現をするという意味ではなく、市民一人ひとりが、自分なりの距離感や役割で文化芸術に関われる選択肢や余白があること、と捉えることもできるのではないのでしょうか。

その視点から、このシートにある各事業について、「この事業の中で市民はどのような存在として位置づけられているのか」「どのような役割や関わり方が用意されているのか」ということを見ていくことも重要だと思います。例えば、単に「何人来場したか」だけではなく、初めて文化芸術に触れた人がどれくらいいたのか、継続して参加するようになった人がいるのか、鑑賞する側から活動する側へ移った人がいるのか、運営や企画を支える側になった人がいるのか、人と人との新しいつながりが生まれたのか、といったことも成果として捉えることができると思います。こうした視点を持つことで、ラブリールホールの入場者数や各事業の参加者数だけではなく、市民と文化芸術との「関係性」そのものを測る指標も考えられる

のではないのでしょうか。事業の数や参加者の数という「量」だけではなく、市民が文化芸術との関係をどのように築き、その関係が時間とともにどう変化しているのかという「質」も含めて評価していく。そうすることで、個々の事業という「点」が「線」になり、さらに市全体の文化芸術のあり方という「面」として見えてくるのではないかと思います。

(安田委員)

子どもや学校からの目線で、子どもに関わる事業は、指定管理事業のアウトリーチや、教室運営型事業ですが、ここ最近、子どもたちの様子見ていたら、昔と違って、自分がやりたいことに向かえるようなものが世の中たくさん提供されているとは感じています。

ただ、そこにアクセスしやすい家庭であればどんどん向かっていけますが、家庭環境的にそうでない子どもは文化や芸術に触れないまま育ってしまいます。広く様々なものを直接体験して触れたり、心揺さぶられたりする機会は全体では少なくなりつつあると思います。

少し余談ですが30年40年前は、学校で映画会をしたり、直接劇団の人が来て演劇を披露したり、そういったものはPTAから出資いただいていた。映画館に行けないから、もしくはミュージカルが見に行けないから、学校で芸術文化に触れる機会を持っていたものが、予算も少なくなり、子どもたちも家庭で行けるようになってきました。今、アウトリーチなどで、学校に直接、音楽のプロや大学の方に来ていただいて、触れる機会を設けることは、子どもたちの感性を豊かにする貴重な機会になっていると思います。公教育の責任もありますが、多くの機会を子どもに与えていくべきだと思います。子どもたちは忘れてしまいかもしれませんが、いずれはそういうところにふっと引っかかる子どももたくさん出てほしいと思いますし、自分でそういう経験を広げてもらえればと思います。

アウトリーチ事業は、学校現場で、子どもの様子を見ていてその一時間がとても濃く成果があるように肌で感じています。少しでも幅広く提供していただけるものを、学校側で活用できるように、子どもたちに提供する機会を増やしていきたいと感じました。

(寶楽副委員長)

子どもたちに限らず、すべての市民に機会が提供されたいと思いますが、おそらくそれを裏付ける行政の施策や予算もあったと思いますし、市民と行政が協働していたこともありま

すし、ラブリーホールの指定管理者というキーワードも出ましたが、一方で、市民が独自に実施したほうが、柔軟性が高い可能性もあると思います。

河内長野市は、早い段階から市民協働を謳っているまちなので、行政がやるべきこと、協働でやるべきこと、事業者でやるべきこと、市民が中心的にやるべきこと、それぞれの良さについて議論できたらと感じました。

ですので、これから話し合っていくべき論点を、私の方から提案したいと思います。

(車谷委員長)

ありがとうございました。委員の皆さんから、指標のあり方についてご意見いただき、例えば、「終了となっているが、完了した部分もあれば、成果として残るような部分を評価として言葉で残す必要もあるのでは」という提案もありました。

先ほども副委員長からもありましたように、評価の仕方はすごく大事で、それをどう現状に活かしていくか、我々の意見を取り入れていただくことでもあるというふうに思いますので、次回からは、「指標の方法」を検討していく必要があると思います。

それから、市民目線、子ども目線、学校現場目線、様々な団体の取り組みを進めておられる方の目線が随分と出ました。それがこの委員会の大事な視点ではないかなと思います。

最後に、行政の役割、市民の役割、協働の役割、大きく分けたらこの三つの視点というのが改めて問われてきていると思います。

シートの見直しについては、かなりしんどい部分がありますが、効率的にやっていく必要がありますし、無駄なことは省いていけばいいと思います。今後は、そのあたりアイデアを出していただいて進めていければと思います。

先ほど言いましたように、河内長野市の「d o a c t i o n」の動きがすごく急速に動き出しています。また、もっと発信力を持って、市民に届くような、子どもたちに届くような、そういうふうな取り組みを進めていただけたらと思っております。

(事務局)

本日いただいたご意見を文章として、2期の最終の総括とさせていただきたいと思います。

先ほど委員長から、この10年でかなり変化があったとご発言がありましたが、皆さまもおそらくこの10年間に、河内長野市の文化振興の変化を感じておられると思います。

ぜひ、この10年間の河内長野市の文化はどうでしたか、文化振興はどうでしたかという面で、ご意見をいただければありがたいと思います。

(寶楽副委員長)

2008年から世界民族音楽祭が市民参加型の事業としてスタートし、その後、大阪府のアート事業で、商店街で、サキタハヂメさんと一緒に、河内長野の文化でどうしていくかという話し合いからスタートし、現在の奥河内音絵巻につながっています。オッカサンという三弦の楽器など、河内長野の木の楽器がたくさんありますが、そういったもの使ったワークショップを商店街で実施してきました。

同じ時期に、市民ミュージカルも委員でもある宮地さんが当時プロデューサーとして携わっていて、当時から市民参加で文化芸術を新しく作る流れが生まれ、万博で大きな「花火」となったことも大きな成果だと思います。

文化連盟など、私が関わる前から実施されていた活動、一般的に文化と言われる活動も大

事にしつつ、市民が新しく参加できる仕組みが生まれてきたことは、大きな成果だと思います。ラブリーホールでも、最近は音絵巻とミュージカルがメイン事業かなと思います。

(尾花委員)

クレアミュージックを開校して十年目なので、ちょうど10年間を河内長野で過ごしていました。開校後に色々なイベントに出させていただくようになり、河内長野で歌わせていただいて、その時に河内長野にはこんなにすごいイベントがあるのかと衝撃を受けました。

その後にコロナ渦となり、いろんなものができなくなりました。さきほど高野街道まつりがおそらく復活するのではという話も出ていましたが、万博がやっぱり大きかったとは思いますが、「なんかやろうよ」という雰囲気はコロナ前に戻ってきたように感じます。

アップダウンがすごい10年だったと思います。ここからまたコロナ前のように上がってきた感じ、あのみんなが何かをやろうとしていた感じが戻ってくるという気がします。この10年の終わりとしては良い方向に来ていると思います。

(宮崎委員)

大阪に来たのがまだ5・6年前で、河内長野もここ4年ぐらいラブリーホールのことを見させていただいていますので、全体的なことは分かりませんが、ただ、ホールがあるということで、コロナというのは大きな打撃だったと思います。住んでいる人たちの感覚も変わったと思います。コロナが明けてから、ミュージカルやコンサートなどもしっかりと戻ってきて、良くなってきていると思います。

(おぐし委員)

5年前に河内長野に移住してきましたので、ちょうどコロナの真っ最中で、本当に暗い街だったのは確かです。以前のことを、いろんな人やメディアから、30年前、河内長野はこの南河内の中心のおしゃれの先端のまちだったと聞きました。今とは全然違うという気はしましたが、やっぱり一人一人のやりたいっていう思いが、コロナもあけて、先ほど尾花委員おっしゃったように高まってきて、少しずつコロナ後からの成功体験が蓄積してきているので、これから楽しくなるのではないかという気がしています。

(飯田委員)

いろんなことを続けるだけでも、現状維持に持っていくだけでも、結構なエネルギーがいると思いますが、今、若い方がたくさん動いてくださっているのが、すごく心強いと思っています。本当にコロナ前にちょっとずつでも戻っていけたらと、今まで抑えられていた分がパッと出てくれればいいなと期待しています。

(おぐし委員)

2年前に委員会に参加させていただいた時に、尾花委員と20代30代の人たちが遊ぶ場所がない、そういう場所があったらいいのという話を最初にした記憶があります。それが30代の子たちが河内長野に戻ってきて、いろんな拠点づくりをして、そこで独自のコミュニティ活動をしているのが少しずつ定着してきています。若い子育て世代たちが楽しむ場所が複数できつつあります。河内長野は楽しいというイメージを、そういう人たちで作ってくれているので、どんどん広がり、その辺も楽しみじゃないかなと思っています。

(安田委員)

10年でこんなに人口が減少するとは思ってなくて、10年前は府の職員でしたが、コロナ前に河内長野市に戻ってきた時にすごく減ってきていると感じました。そこからの急激な減りと、ただ一旦は下げ止まりで、いろいろな団体や市の政策があって逆に盛り上がりつつあると思います。いろんな仕掛けがここへ来て出てきているように思います。

1期と2期の計画があるからこそ、次の3期をどう展開するか、市民がいかにつながるかということが、この3期で重要になるのではと思いました。

(吉年委員)

東京に10年ぐらい住んで、家族を連れて河内長野に引っ越してきますが、東京でこの話をアイスブレイクで話すと、羨ましいっていう人が結構多いです。自分のアイデンティティのある、都会じゃなく、水も風もきれいで、しっかり環境が整った場所があっていいねという声がありました。一方で、駅前で会議をしていたら、「もうこのまちがもう終わるよ」というネガティブな会話しかありません。そんな会議では、「文化とか言っているのか」という、もうコントラストがすごくてですね。

結論としては、前向きな市民の方々がきついていると思いますし、10万人弱の人口がいますから、若者たちも明るく、前向きにやっておられることはよく聞きますので、この先、この前の10年がどうかよりも、この先の10年は明るくできる余地があると思います。

(車谷委員長)

ありがとうございました。短時間で様々な意見を頂戴しました。10年間もしくは短期の部分振り返りながら、それぞれのポジションでご活躍いただいている皆さん方の経験からの実感かと思います。私も、市民として長く市内に住んでいます。ただ、知らないことが多く、実は5月に天野山金剛寺の日月山水図の公開があり、初めて見に行きました。そこで一番に感じたのは、河内長野でこんなのがあったのか、同時にあの綺麗な天野山金剛寺の庭園を改めて見ました。こんな近くにこんな素晴らしいものがあるのかという発見がありました。これから河内長野のもっといろんなことに関わってみたいと思います。

未来を担う子どもたちをこの文化の中に、どう取り入れていくかという視点も絶対に必要だと思います。アウトリーチ事業で感動したという体験を聞く中で、もっと子どもたちが日常生活の中で、公民館活動でもやっていただいています、感動する体験や企画に参加するなども考えていただきたいです。そうすると、小さい頃から育っていくものがずいぶんあるのではと思います。私はそのような視点ですっとこの文化を見ております。また、いろんなご意見を聞かせていただいて進めていきたいと思っています。

(事務局)

今回いただいたご意見と、それから皆さんの思いをまとめさせていただき、2期の総括をまた提案させていただき、ご了承いただくという形でよろしいでしょうか。

もう1点、今回いただいたご意見の多くは、評価のあり方についてでしたので、3期の進行管理はまた改めて、次回の委員会でご意見をふまえて提案させていただきたいと思っています。

数値化や整理の仕方、終了で斜線になっていますので、違う形で、先につながるような進行管理を考えていきたいと思っています。貴重なご意見、本当にありがとうございました。

(車谷委員長)

事務局から連絡事項をお願いします。

(事務局)

本日は皆様、貴重なご意見ありがとうございました。次回の会議を11月頃に開催したいと考えております。またメール等で日程調整の方をお願いさせていただきますのでご協力お願いいたします。

(車谷委員長)

それでは、これにて閉会といたします。

令和8年度第1回河内長野市文化振興計画推進委員会 次第

日 時：令和8年5月20日（水） 午前10時30分～

場 所：河内長野市立市民交流センター（キックス） 中会議室 AB

1. 開 会

2. 案 件

- （1）委嘱状交付及び委員長・副委員長選出
- （2）第2期文化振興計画の進捗状況について

3. その他

河内長野市文化振興計画推進委員会名簿

氏名

所属または肩書

運営規則2条分野

車谷 哲明	大阪芸術大学芸術学部 教授	(4)学識経験者
佐藤 有紀	大阪芸術大学芸術学部 准教授	(4)学識経験者
宮崎 優也	指揮者・ 日本芸術文化振興会プログラムオフィサー	(2)アーティスト
宮地 泰史	ザ・フェニックスホール チーフマネージャー	(3)文化団体関係者
寶楽 陸寛	特定非営利活動法人SEIN 事務局長	(3)文化団体関係者
飯田 由美子	河内長野市文化連盟 理事	(3)文化団体関係者
おぐし みき	地域メディアクリエイター	(1)市民
吉年 海	株式会社吉デ 代表	(1)市民
尾花 由佳理	クレアミュージック河内長野 代表	(2)アーティスト
安田 喜孝	小中学校校長会	(3)文化団体関係者

<委嘱期間:令和8年5月20日～令和10年5月19日>

「河内長野市第2期文化振興計画」関連事業一覧表□

基本理念 市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち～ひとと人がめぐりあい、感動と活力を生む河内長野型文化事業の創出～

目標 ①市民がつながり地域が輝く ②地域がつながりまちが輝く

方針	施策	展開イメージ	事業名称	事業概要	実施年度										(R7) 担当課	備考
					H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績		
方針①：市民が主役となる感動の場・想像の場づくり	(1) ラブリーホールを拠点に「本物」に身近に触れられる機会を提供	①音楽・舞踊・ミュージカル・伝統芸能等、多彩な鑑賞型公演の開催	教室運営型事業を除く鑑賞型の指定管理事業	オペラ、ミュージカルの制作・上演による「創造発信型事業」、独自の音楽祭や合唱団演奏会などの制作・上演による「市民参画型事業」、ほか「芸術家育成型事業」、「芸術文化普及型事業」と主要目的を明確にし取り組み、多くの市民が鑑賞及び参加できる機会を提供する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	R7年度オペラの実施はなし
		②文化施設の機能・サービスの充実	文化会館及び市民交流センターの2館一体管理による連携	両館の間における施設利用貸出し等の連携を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	終了				文化・スポーツ活性課	
			利用者へのサービスの充実	文化会館の部分貸し（舞台のみ、ホワイエのみ等）や、利用者へ利用ノウハウの提供等を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
			委託業者との連携	インターネットを利用したチケットシステムを活用する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		③文化施設のネットワーク化	南河内文化会館ネットワーク委員会における事業	松原市、藤井寺市、富田林市、羽曳野市、大阪狭山市、河内長野市の6市の文化会館において相互の連携を図り、協同で「南河内」A Z Zフェスティバル」等の事業を実施する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	R7年度大阪狭山は不参加
		④継続事業の役割と意義に対する独自評価の実施	事業評価シートの作成（ラブリーホール）	ラブリーホールの各事業ごとの事業評価シートの作成により、独自評価を実施する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
			河内長野市第2期文化振興計画（H28～H37）進行状況管理・評価	第2期計画の理念及び方針に基づく各施策の進捗状況の管理、評価指標による評価、担当課や連携組織の所感などによる評価・検証を2年ごとに行う。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
	(2) 市民が文化と出会い、主役となる場の創造	①市民が主役となる参画型事業、創造発信型事業の実施	つながりフェスタ	市民公益活動団体が活動内容の展示やステージ発表等を行い、ボランティア・市民公益活動の啓発及び交流促進を図る。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	まちづくり推進課	
			指定管理事業「創造発信型事業」	オペラ、ミュージカルの制作・上演による「創造発信型事業」を実施し、市民とプロとが舞台を制作する過程から交流し本番で共演する。	実施	→	→	→	一部中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	R7年度オペラの実施はなし
			指定管理事業「市民参画型事業」	独自の音楽祭や合唱団演奏会などの制作・上演による「市民参画型事業」を実施し、その話題性及び参加市民による口コミの両方による情報発信を行う。	実施	→	→	→	一部中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		②「知るから学ぶ、学ぶから体験する」指向を促す教室・講座各種の実施	ボランティア入門講座	市民公益活動に興味や関心を持ってもらうことを目的に、市民公益活動の意義や、活動を行う上での心構え等を学ぶ機会を提供する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	まちづくり推進課 社会教育第1課	
			ボランティア活動体験プログラム	市民公益活動団体の活動を体験する機会を提供し、活動への理解及び参加の促進を図る。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	まちづくり推進課	
			指定管理事業「教室運営型事業」	ミュージカルスクールやのこぎり音楽教室等の4つの通年教室を実施。また、各教室の生徒による発表会や地域の催事への出演、アウトリーチ事業など。	実施	→	→	→	一部中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	現在は3つの教室運営
		③「体験から発表へ」市民のステップアップする努力を支援する発表の場や支援の体制づくり	河内長野市民まつり（ステージ）	河内長野市民まつり内で実施するステージプログラムにおいて、ダンス、軽音楽、吹奏楽、和太鼓などを披露する場を設ける。	実施	→	→	→	中止	→	終了				市民窓口課	R4.9.30実行委員会解散
			指定管理事業「市民参画型事業」	「合唱団演奏会」にて、募集した市民約130名が1年間の練習を経てプロのオーケストラ・ソリストと共演を行う。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	R7年度の合唱参加者数は約80名
			指定管理事業「教室運営型事業」	ミュージカルスクールやのこぎり音楽教室等の4つの通年教室を実施。また、各教室の生徒による発表会や地域の催事への出演、アウトリーチ事業など。	実施	→	→	→	一部中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	現在は3つの教室運営
			市立公民館活動発表会	日頃の公民館利用団体の学習状況とその成果を広く市民に披露すると共に、開かれた公民館を目指し、発表会を一つの節目として今後の公民館活動への積極的な参加意欲を促進する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第1課	
	(2) 市民が文化と出会い、主役となる場の創造	④市民が主体となって準備から関わる実行委員会や各種団体の支援	青少年健全育成事業（青少年音楽フェスティバル）	青少年指導員と参加グループの高校生・大学生が協力し、日頃の音楽活動の成果を発表、鑑賞する場を提供する。	実施	→	→	→	中止	→	実施（効果あり）	→	→	→	社会教育第1課	
			市民公益活動支援補助金（一般型）	地域及び社会の課題解決並びに新たな公共サービスの充実を図ることを目的とし、市民公益活動団体に補助金を交付する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	→	→	まちづくり推進課	
			指定管理事業「芸術文化活動活性化支援事業」	河内長野市文化連盟の実施する文化祭等の事業を、事務局として協同実施する。また地域の文化団体等との共催事業を実施する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		⑤社寺や公園等の空間を文化活動の場として活用するための情報提供	ラブリーホール・ミュージカルスクール生によるコンサート実施や各イベントへの出演による場の活用	ハーベストの丘、くろまろの郷、市役所ロビーなどでミュージカル公演のPRコンサート等を実施する。	実施	→	→	→	中止	→	→	→	検討	実施（効果あり）	文化・スポーツ活性課	R7年度はハーベストの丘で実施
			奥河内アートエデュケーション事業	市内の社寺やコミュニティセンター等を活用し、写生などのアート事業を実施する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	

方針	施策	展開イメージ	事業名称	事業概要	実施年度										(R7) 担当課	備考
					H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績		
方針②：人と文化、ひとと人をつなぐ人材づくり	(1) 異なるコミュニティをつなぐコーディネート機能	①行政内部、公共施設における、連携を促進するコーディネーターの育成に向けた環境づくり	コーディネーター育成制度の構築	行政側や団体側において、コーディネーターを受け入れるための制度を構築する。	調査研究	検討	→	→	→	→	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		②協力者や専門家などの人材リストの情報管理と定期的な更新	生涯学習情報提供システム「学びやんネット」管理	①イベント・相談・募集情報、②施設情報、③団体・グループ情報、④講師・ボランティア情報、⑤刊行物・冊子・ビデオ情報を広くインターネット上で公開、定期的に更新を行う。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	実施（効果あり）	→	社会教育第1課	
		③文化に関わる人材・団体の交流や連携事業および、その専門技術や知識の活用	図書館事業へのボランティア参画	子どもたちへの読書推進イベントへの実施や、障がい者向けに読書支援や資料の製作等を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
			指定管理事業「芸術文化活動活性化支援事業」	河内長野市文化連盟の実施する文化祭等の事業を、事務局として協同実施する。また地域の文化団体等との共催事業を実施する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		④市民団体等の多様な人材をつなげるプラットフォームづくり	ボランティアマッチング	かわちながのボランティア・市民活動センターにてボランティアをしたい人（団体等）とボランティアをしてほしい人（団体等）のマッチングを行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	まちづくり推進課	
			地域まちづくり支援補助金	市民相互の協働による自律性の高いまちづくりを進めることを目的に、地域まちづくり協議会に対し補助金を交付する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	まちづくり推進課	
			まちかどカフェ開催の場と資料の提供	認知症に関心を持つ当事者や家族、ボランティアが集い、情報交換できる場や関連資料を提供する。				実施	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
			学齢期子ども読書活動推進連絡会議の開催	読書推進を図るため、学齢期の子どもの成長に関わる関係者が意見交換を行う場を提供する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	実施（効果あり）	→	→	社会教育第2課	
		⑤事業を通じた連携の場の創出	指定管理事業「芸術文化活動活性化支援事業」	河内長野市文化連盟の実施する文化祭等の事業を、事務局として協同実施する。また地域の文化団体等との共催事業を実施する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		⑥民間活力を活かしたアートの中間支援組織の育成と資金支援の充実	各種民間助成事業への応募	実施事業に対し、各種民間団体の募集する助成事業へ応募する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	実施（効果あり）	実施（変化なし）	→	文化・スポーツ 活性課	
	(2) 各種事業での人材育成	①アート人材育成に係る仕組みづくり	指定管理事業「芸術文化活動活性化支援事業」及び「芸術文化普及型事業」における人材育成	くらぶリーホール新人演奏会>からくロビーコンサートシリーズ>、<カフェ・コンチェルトシリーズ>へとステップアップする出演機会の提供による新進芸術家の育成を行う。また、アウトリーチ事業への参加による人材育成に取り組む。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
			オペラへの人材起用	地域より募集し、オーディションにより起用する。若手声楽家のオペラ出演機会を設ける。	実施	→	→	→	中止	検討	→	中止	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		②アート人材育成につながる教室支援事業	指定管理事業「教室運営型事業」	生徒による発表会や地域の催事への出演のみならず、アウトリーチ事業の担い手として各方面での活動を行う。	実施	→	→	→	一部中止	中止	→	実施（効果あり）	実施（変化なし）	→	文化・スポーツ 活性課	
		③コーディネーターやアートプロデューサーの育成	研修会への参加	各地で行われる研修に、文化会館の指定管理者職員が参加し、スキルアップに努める。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		④文化活動で顕著な成果を収めた人や団体に対する支援策の構築	教育委員会表彰事業	河内長野市教育委員会表彰規程に基づき、教育、体育、文化、芸術等の分野において優秀な成績等を挙げた個人・団体に対して教育委員会より表彰を行う。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	→	→	教育総務課	

方針	施策	展開イメージ	事業名称	事業概要	実施年度										(R7) 担当課	備考
					H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績		
方針③：人の循環を深め、心豊かになる環境づくり	(1) 地域課題の解決に取り組む	①アウトリーチによる他分野での文化活動の展開	指定管理事業「アウトリーチ事業」	学校・福祉施設へ出向き、コンサート等の鑑賞型や楽器演奏といった体験型事業を実施。大阪教育大学との連携により出演する学生の育成を図る内容にも取り組む。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		②地域の課題やニーズを把握するフィールドワークや相談窓口の設置	図書館での調査相談カウンターの設置	市民の課題解決に向けた図書館資料などを紹介するカウンターを設置。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	実施（効果あり）	→	→	社会教育第2課	
		③地域課題の解決に活かせる市民・民間の知恵やスキルを継承する仕組みの構築	課題解決事例集の蓄積・公開	図書館での課題解決事例を蓄積し、図書館窓口での回答に役立てるとともにホームページでも一部の事例を公開、必要な情報の提供を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
			指定管理事業「生涯学習推進事業」に係る大学連携講座、大阪千代田短期大学編	地域の課題解決に取り組むため、学生と市民が数回にわたりグループワークを行い、発表する講座を実施する。	実施	→	→	→	中止	→	終了				文化・スポーツ 活性課	
		④地域の結びつきを活性化させるまちなかアートプロジェクトの実施	河内長野市民まつり（ステージ）	河内長野市民まつり内で実施するステージプログラムにおいて、市民のダンス、軽音楽、吹奏楽、和太鼓などを披露する場を設ける。	実施	→	→	→	中止	→	終了				まちづくり推 進課	
			「かわちながの世界民族音楽祭」「奥河内音絵巻」	中心となる事業以外にも、地域の文化団体の発表や出店の場を設け、地域のつながりをつくる場を提供する。	実施	→	調査研究	→	実施	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	R7年度は音絵巻を万博会場にて実施
		⑤子どもたちが文化芸術に触れ、豊かな心を育む機会の充実	指定管理事業「アウトリーチ事業」	学校・福祉施設へ出向き、コンサート等の鑑賞型や楽器演奏といった体験型事業を実施。大阪教育大学との連携により出演する学生の育成を図る内容にも取り組む。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	R7年度は音絵巻を万博会場にて実施
			文化連盟「夏休み子ども体験事業」	文化連盟による「夏休み子ども体験事業」の実施により、子どもたちが文化芸術に触れ、豊かな心を育む機会を提供する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		本市の国際化推進のため英語に触れる機会の提供	河内長野市英語村構想事業	グローバル化に対応するため、広く幼児から大人までを対象に、それぞれの段階に応じて、英語に親しむ講座を実施する。			調査研究	実施	→	実施（変化なし）	→	→	→	終了	社会教育第1課	河内長野市英語村構想事業としてのこどもえいご村は終了しているが、放課後子どもプラン事業の放課後子ども教室内でこどもえいご村事業を継続している。
		⑥本市の多文化共生の基本的な施策の方向性を示す指針の策定	多文化共生推進プランの策定	①多文化共生の環境づくり、②国際化時代を担う人づくりを目標に、全ての人に配慮した安全安心な暮らしやすい社会の確立につなげるプランを策定する。	検討	→	→	実施	終了						文化・スポーツ 活性課	
			英語多読資料の整備及び英語のおはなし会の実施	K I F Aと共催し、英語のおはなし会を実施。また英語多読について、コーナーを設け図書を整備するとともに、講座等を通じ英語に親しむ機会を提供する。			実施	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
	(2) 地域振興に取り組む	①都市魅力を発信する事業と連携した事業の実施	「かわちながの世界民族音楽」「奥河内音絵巻」	地域の歴史や文化財をモチーフにしたオリジナル曲を「おおさか河内材」を使用した楽器によって演奏する音楽祭を実施する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	R7年度は音絵巻を万博会場にて実施
		②アウトリーチによる観光事業や地場産業の活用	指定管理事業「アウトリーチ事業」	「世界民族音楽祭」「奥河内音絵巻」関連の演奏を実施する。	実施	→	→	→	中止	検討	→	中止	→	実施（効果あり）	文化・スポーツ 活性課	R7年度は音絵巻を万博会場にて実施
		③寺社・史跡・埋蔵文化財・街道等を活かした文化事業の実施	第2次河内長野市文化財保存活用地域計画策定事業	歴史文化基本構想に基づいて文化財保存・活用を行うためのアクションプランである第2次河内長野市文化財保存活用地域計画を策定する。	検討	→	実施	実施	終了				実施（効果あり）	→	社会教育第2課	R1までは、文化財保存活用計画策定事業。以降、文化財保存活用地域計画となり、R8より第2次が開始。
			文化財ライトアップ事業	観心寺境内のライトアップを通じた観光集客事業を実施する。	実施	→	終了								産業観光課	
			高野街道まつり事業	河内長野駅～三日市町駅間の高野街道を活用した観光集客事業を実施する。	実施	→	→	→	中止	→	→	終了			産業観光課	
			歴史遺産活用事業	市内の歴史遺産をテーマとしたシンポジウムの開催・展示・文化財特別公開（ぐるっとまちじゅう博物館事業）、出前授業等を行う。	実施	→	実施	→	→	実施（効果あり）	→	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	社会教育第2課	
			ふるさと学	小学校5、6年生、中学1年生がふるさと学テキスト「かわちながの物語」を使って学ぶ。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	学校教育課	
		④地場産業の付加価値を高めるクリエイターとのマッチング事業	販路開拓等支援事業	市内事業者を広く支援する本事業の一環で、地場産業である「つまようじ」関連事業者に対し、事業者間連携や外部専門家とのマッチング等を支援する。	実施	→	→	終了							産業観光課	
			産品ブランド等お土産・商品開発事業	地産地消イベント（奥河内フルーツラリー）を通じた生産者（地場農産物）と事業者のマッチング等を支援する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	産業観光課	
			おおさか河内材でつくる「河内長野世界民族音楽祭」	おおさか河内材などを使用し、世界民族音楽祭の楽器づくりワークショップを実施する。	実施	→	調査研究	→	検討	→	実施（効果あり）	中止	→	→	文化・スポーツ 活性課	
		⑤民間支援の活用方法の検討と環境整備	イルミネーション事業に対する募集特定寄附金の募集	ラブリーホールクリスマスイルミネーションに対する協賛寄附金を企業、団体、個人から募集し、事業費の一部に充当する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ 活性課	

方針	施策	展開イメージ	事業名称	事業概要	実施年度										(R7) 担当課	備考
					H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績		
方針④：感動と循環が生みだす魅力の発信	(1) 市内への「知るから参加へ」を促す情報発信	①文化振興データベースの構築	生涯学習情報提供システム「学びやんネット」管理	①イベント・相談・募集情報、②施設情報、③団体・グループ情報、④講師・ボランティア情報、⑤刊行物・冊子・ビデオ情報を広くインターネット上で公開、定期的に更新を行う。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	実施（効果あり）	→	社会教育第1課	
		②多様な情報発信ツールの活用	ホームページ、ブログ、フェイスブックによる情報発信	公演実施情報だけでなく、リハーサルや事業制作段階での情報を提供し、タイムリーでより細かな情報発信を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
			電子図書館における資料の提供	非来館型サービスとして、音声や文字の拡大などバリアフリー機能のあるものを含む電子書籍の貸出を行う。					実施	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
		③まちかどや店先など身近な場所で開催するイベントの実施（ロコミの促し）	高野街道まつり事業	河内長野駅～三日市町駅間の高野街道を活用した観光集客事業を実施する。	実施	→	→	→	中止	→	→	終了			産業観光課	
			駅前空地活用によるイベント実施の促進	NPO法人にぎわい河内長野21が行う事業を促進し、人的交流やにぎわいの創出を図る。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	→	→	まちづくり推進課	
			ミュージカルイベント出演での場の活用	市役所ロビーやハーベストの丘、教育フォーラムなどでミュージカル公演のPRコンサートを実施する。	実施	→	→	→	中止	検討	→	中止	検討	実施（効果あり）	文化・スポーツ活性課	R7年度はハーベストの丘で実施
		④市民が主体となった情報の編集と発信	くろまる塾運営ボランティアにおけるキックスブログの記事作成	くろまる塾の学生による運営ボランティアスタッフが、キックスHPにおけるブログ記事の作成を行う。	検討	実施	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	実施（変化なし）	→	社会教育第1課	
		⑤市役所や駅前での恒常的な発表の場作り	にぎわいプラ座の運営の促進	住民や団体等が活動する場として、「にぎわいプラ座」の運営を促進する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	→	→	まちづくり推進課	
			ミュージカルイベント出演での場の活用	市役所ロビーやハーベストの丘、教育フォーラムなどでミュージカル公演のPRコンサートを実施する。	実施	→	→	→	中止	検討	→	中止	検討	実施（効果あり）	文化・スポーツ活性課	R7年度はハーベストの丘で実施
	(2) 地域課題に取り組む文化行政としての市内外への情報発信	①取り組みの紹介や評価を定期的にまとめた情報発信	ラブリーホールホームページの強化及びホームページ、ブログ、フェイスブックによる情報発信	公演実施情報だけでなく、リハーサルや事業制作段階での情報を提供し、タイムリーでより細かな情報発信を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		②他の先進事例地域との情報交換をかねたシンポジウムなどの開催	他自治体との文化的取組に係る情報交換の実施	他自治体との文化的取組に係る情報交換を実施する。	調査研究	検討	→	→	→	検討	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		③民間や国・府の補助事業に参加することによる情報の拡散	大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラムとの連携	文部科学省委託事業である、子どもの読書活動推進に関するイベントとの連携を行う。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）		実施（効果あり）	→	→	社会教育第2課	
			文化庁、総務省管轄の団体による助成事業及び、府補助事業の開催	各助成事業に申請し、助成金を獲得すると共に事業の高評価を得た実績、また各団体が発行する冊子やHP等に事業が紹介されることによる情報の拡散を図る。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		④長期的に実施している特色のある事業の評価や歩みの周知徹底	文化連盟「文化祭」の周知	文化祭実施により市の文化行政へ貢献してきた実績の情報発信を行い、市民理解を図る。	検討	→	→	→	一部中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	文化・スポーツ活性課	
		⑤市民への地域の伝統文化の継承や学びの場の提供	歴史遺産活用事業	市内の歴史遺産をテーマとしたシンポジウムの開催・展示・文化財特別公開（ぐるっとまちじゅう博物館事業）、出前授業等を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	社会教育第2課	
			古文書講座・歴史講座・文化遺産講座などの読書推進講座	本市の郷土資料である古文書を題材にした読み解きかたや郷土の歴史、文化遺産にまつわるテーマの講座を開催する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
			指定管理事業「生涯学習推進事業」に係る地域学講座	くろまる塾「地域学講座」を実施し、地域の取組みを学ぶ場を提供する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第1課	
	(3) 観光など来訪者を対象にした市外への情報発信	①都市魅力を発信する事業と連携した統一的な情報発信	奥河内イメージ戦略事業 奥河内観光PR事業（H30事業名変更）	「ちかくて、ふかい 奥河内」をキーワードに、本市が有する自然・歴史などを幅広くPRし、観光集客につなげる情報発信事業を行う。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	産業観光課	
			広報推進事業	「広報戦略プラン～まちへのファンを増やす魅力発信～」を策定し、住む・働く・遊ぶ・学ぶ・買う等の様々な場面で本市が「選ばれる都市」となるために、市民・団体・事業者等との情報共有、相互理解を深め、市政参加を促進しつつ、市内外へ効果的かつ効率的に魅力発信を展開する。	検討	実施	→	→	→	実施（効果なし）	→	→	→	→	シティプロモーション課	
		②歴史資源・自然環境・地場産業の情報収集	第2次河内長野市文化財保存活用地域計画策定事業	歴史文化基本構想に基づいて文化財保存・活用を行うためのアクションプランである第2次河内長野市文化財保存活用地域計画を策定する。	検討	→	→	実施	終了				実施（効果あり）	→	社会教育第2課	R1までは、文化財保存活用計画策定事業。以降、文化財保存活用地域計画となり、R8より第2次が開始。
			観光情報発信委託事業	本市の観光に関する各種情報発信を観光協会へ委託する。	実施	→	→	→	→	終了					産業観光課	
			図書館資料としての郷土資料の収集	本市の魅力を市内外の人々に伝える郷土資料の収集・保存・提供を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
			歴史遺産活用事業	市内の歴史遺産をテーマとしたシンポジウムの開催・展示・現地特別公開（ぐるっとまちじゅう博物館事業）、出前授業等を行う。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	→	→	→	→	社会教育第2課	
		③文化の視点で活かした歴史資源・自然環境・地場産業の魅力発信	観光情報発信委託事業	本市の観光に関する各種情報発信を観光協会へ委託する。	実施	→	→	→	→	終了					産業観光課	
			奥河内読書マップの作成・配布	河内長野市内の魅力的なスポットとおススメ本を併せて紹介するガイドブックの作成と配布。	実施	→	→	→	終了	実施（変化なし）	→	→	中止	→	社会教育第2課	
			広報推進事業	「広報戦略プラン～まちへのファンを増やす魅力発信～」を策定し、住む・働く・遊ぶ・学ぶ・買う等の様々な場面で本市が「選ばれる都市」となるために、市民・団体・事業者等との情報共有、相互理解を深め、市政参加を促進しつつ、市内外へ効果的かつ効率的に魅力発信を展開する。	検討	実施	→	→	→	実施（変化なし）	→	→	→	→	シティプロモーション課	
			「かわちながの世界民族音楽」「奥河内音絵巻」	おおさか河内材の使用し、木・自然の魅力を再認識する事業、「世界民族音楽祭」「奥河内音絵巻」を各メディアにより発信する。	実施	→	→	→	→	実施（効果あり）	実施（変化なし）	実施（効果あり）	→	→	文化・スポーツ活性課	R7年度は音絵巻を万博会場にて実施
			鉄道連携事業	民間鉄道会社（南海電鉄など）と連携したウォーキング事業を実施する。	実施	→	→	→	中止	実施（効果あり）	→	→	→	→	産業観光課	
		④旅行者・観光雑誌出版社・私鉄等、企業との連携	河内長野市商店連合会や民間団体発行紙面での図書館情報の発信	「kawachiかわら版」（2019年廃刊）や「未来ボシエット」などのミニコミ紙で情報を発信する。	実施	→	→	→	→	実施（変化なし）	→	実施（効果あり）	→	中止	社会教育第2課	
			⑤既存のまちなかアート作品の利活用	まちかどアート	終了										文化・スポーツ活性課	